

2005年7月19日

報道関係各位

愛知万博瀬戸会場 瀬戸愛知県館

瀬戸愛知県館 ムササビがやってきた  
瀬戸愛知県館のムササビ  
夜間撮影に初成功

瀬戸愛知県館は、愛知万博の原点である瀬戸会場に位置します。会場の周辺に広がる海上の森には、さまざまな生き物が生息しています。

森の仲間のひとりであるムササビが最近、瀬戸愛知県館を訪問されましたので、皆さんに報告させていただきます。

■ 愛知万博 愛知県館総合プロデューサー山根一真からのメッセージ

瀬戸愛知県館のパビリオン内、吹き抜け空間にあるシンボルである「コナラの木」に、希少動物であるムササビが到来している姿を映像でとらえることに成功しました。



6月中旬過ぎからムササビの到来を思わせる食痕のあるコナラの葉やムササビと思われる糞が認められたため、閉館後の夜間に4台ビデオカメラによって自動撮影を続けました。照明を消した暗闇での撮影であるため、赤外線カメラなどを用いて録画撮影を続けた長時間の記録テープの検証と画像処理を行った結果、ムササビの活動が鮮明に録画されていることがわかりました。

ムササビの姿を初めて捉えたのは6月28日午前2時頃でした。ムササビの姿は7月6日23時15分過ぎまでの間に10シーンで撮影されていました。7月6日の映像ではムササビがコナラの葉を食している映像が得られていますが、この時にムササビが落とした食べかけの葉は翌朝に回収しています（添付写真）。

瀬戸愛知県館は、愛知万博の原点である瀬戸会場に位置します。会場の周辺に広がる海上の森にはさまざまな生き物が生息しているため、瀬戸愛知県館の建設に当たってはそれらの生物に徹底して配慮する空前のエコ工事を進めてきました。万博関連工事のために伐採する運命にあったコナラの巨木（高さ20m）を、困難の末に大型トレーラーで運びパビリオン内に移植したのも、その配慮のひとつでした。

愛知万博は「自然の叡智」がテーマです。そのため瀬戸愛知県館では、瀬戸会場への出展は「海上の森の生物を守りこの問題を考える内容にするべきだ」と訴えてきました。瀬戸愛知県館の「森の劇場」の映像内容でもこのことを訴えています。パビリオン内にムササビが到来してくれたことは、私たちの思いに希少生物が応えてくれたことを意味しており、はかり知れぬ喜びを感じています。

瀬戸愛知県館の森の劇場の映像では、「この森の生物の一つでも欠けてはいけない」と食物連鎖の重要性を語りかけていますが、伐採の運命にあったコナラの木にムササビが到来し、その葉を食していることは、海上の森の食物連鎖がパビリオン内でも実現したことになります。

1851年のロンドンで開催された第1回万国博覧会以来154年、万博会場のパビリオン内に夜ごと希少動物が到来するのは前例のないこととされます。

ムササビの到来は、万博史上初の画期的な事件です。世界は愛知万博が21世紀型万博のありようをどう示すかを注目していますが、瀬戸愛知県館はその世界の期待にも応えるささやかな成果を手にしたことになります。

愛知県館総合プロデューサー・山根一真

#### ■添付資料

- 写真           ○ムササビが「コナラの木」で活動中（ビデオキャプチャ画像）  
                  ○ムササビが食べたコナラの葉（ムササビが落としたもの）  
参考資料       ○ムササビに関する資料（「レッドデータブックあいち」など）

#### ■映像と画像資料

以下の資料をご希望の場合は瀬戸愛知県館管理グループへご連絡下さい。

○ ムササビのビデオ映像（33分）---CD-ROM 1枚

○添付写真のデジタルデータ（メールによる送信も可能です）

瀬戸愛知県館管理グループ（飯田、前田）

TEL 0561-85-3014

FAX 0561-85-3026

Mail : yoshiaki\_maeda@pref.aichi.lg.jp